

## I 目指す学校

### 1 スクール・ミッション

「学問を愛し、知性を高める・体力の向上に努め、健全な心身を養う・人権を尊重し協調及び互助の精神を養う・地域理解を深め、国際的視野に立って社会に貢献する人間の育成を図る」を教育目標とし、学校を中心として一つの“チーム”となって団結して部活動や学校行事に取り組むことで、社会に貢献する生徒を育成します。

### 2 スクール・ポリシー

#### (1) グラデュエーション・ポリシー

- ア すぐに答えのない課題に対しても失敗を恐れず、協働的に互いの資質・能力を高め合いながら粘り強く挑戦しようとする力（挑戦力）
- イ よりよい未来の実現に向けて理想や目標を高く持ちながら、身の回りの小さなことから一つ一つ積み重ねて実現しようとする力（継続力）
- ウ 文武両立を高度に実現させるために、目的や行動を明確にして時間を有効活用する力（行動力）
- エ 学校行事や部活動などの様々な教育活動を本気で取り組み、仲間とともに汗をかき、涙を流すことで達成感を味わうとともにチームとして団結できる力（団結力）
- オ 自分と異なる意見に謙虚に耳を傾け、多様性を尊重しながら問題解決しようとする力（傾聴力）
- カ 心身ともに健康で、挨拶などを通して人間関係を良好に保ち、仲間を思いやることができる力（礼節力）

#### (2) カリキュラム・ポリシー

- ア 確かな学力と豊かな教養
  - ・基礎、基本を重視した学力の向上を推進するために、「ICT活用の研究」や校内授業研究を実施し、授業改善を通してわかりやすい授業を実践し、授業の質的向上を図る。
  - ・読書指導により、考える習慣、豊かな感性や情操を身に付けさせるとともに、言語活動の充実を図る。
  - ・自学習習慣を定着させるとともに、外部機関と連携した補習を実施し、学習支援の充実を図る。
- イ 主体的な学校行事と母校愛の育成
  - ・雪谷高校生として社会に期待されている姿を考えさせるとともに、身に付けるべき規範意識を明示し、全教員で生活習慣の確立をサポートすることを通して、規律ある生活を定着させる。
  - ・生徒会、委員会活動、学校行事に一生懸命取り組むことで、課題解決能力を養うとともに、母校愛と帰属意識を育成する。
  - ・近隣の学校及び関係機関等と連携しながら、体験活動やボランティア等を行い、地域に開かれた学校を推進する。
- ウ 希望の進路実現
  - ・総合的な探究の時間をはじめとする探究活動を充実することで、主体的に考え、行動・表現する力を育成し、キャリア教育の充実を図る。
  - ・入学から卒業まで計画的な指導を行い、より高い目標に挑戦できる進路指導の充実を図る。
- エ 思いやりと部活動の活躍
  - ・年齢の異なる人との交流やセーフティ教室等を通して自他を尊重する心の育成を図る。
  - ・部の目標を明確にし、チームの大切さを主軸にした意図的・計画的な指導を行うことで部活動の活性化を図る。

#### (3) アドミッション・ポリシー

本校の目標は、「文武両立」すなわち、知性が高く健康で調和のとれた人材の育成です。このため学業に積極的に取り組み、目的意識をもって学校生活を送ることができる生徒を期待します。

- ア 本校への志望動機が明確であり、入学後、積極的に高校生活に取り組む意欲をもつ生徒
- イ 将来の進路に対する目的意識がしっかりしており、目標の実現に向けて日々努力できる生徒
- ウ 学習意欲が高く、入学後も探究心、向上心により成果が期待できる生徒

- エ 中学校で学校行事や部活動等の特別活動に積極的に参加し、入学後はリーダーシップのとれる生徒

## II 中期的目標と方策

### 1 目標

- (1) 学問を愛し、知性を高める。
- (2) 体力の向上に努め、健全な心身を養う。
- (3) 人権を尊重し、協調及び互助の精神を養う。
- (4) 地域理解を進め、国際的視野に立って社会に貢献する人間の育成を図る。

### 2 方策

- (1) ICT機器等を使ったわかりやすい授業を実践して生徒のやる気を引き出すとともに、進学重点校の授業参観等を通して、大学受験に即応した進学指導力を身に付ける。
- (2) 教科として模試の分析会等を通して現状の学力を把握し、生徒の希望が叶えられるよう授業計画や指導方法の改善を図る。
- (3) 学習活動及び部活動を通して心身を鍛え、体力を向上させ、困難にもくじけない不屈の精神を養う。
- (4) 自学自習する習慣の確立や学校行事の運営等を通じて自主自立の精神を育む。
- (5) 生徒・保護者・同窓会・地域・教職員が一つの“チーム”となって団結し、生徒一人一人にきめ細かな指導を行い、すべての生徒の進路希望を実現できる学校を目指す。
- (6) 地域に根差した教育活動の推進し、奉仕活動や生徒会活動・部活動を通して近隣の学校及び関係機関等と連携を図る。
- (7) 教職員が自らの家庭や自身の時間を大切にし、人生を楽しみながら仕事ができる職場にする。

## III 今年度の取組目標と方策

### 1 学習指導（重点目標）

- (1) 基礎・基本を重視した指導、主体的・対話的で深い学びに向けた指導力の向上に努める。
- (2) 生徒所有のPC等を有効活用した授業を定期的実施し、探究活動を促進させる。
- (3) 週末課題等を通して家庭学習時間を、学年+1時間を確保する指導の工夫を行い、家庭学習の定着を図る。
- (4) 模試等の客観的データを各教科で分析し、指導計画に取り入れ実践することで、学力向上を図り、生徒の希望の進路を実現させる。
- (5) 理数教育を推進し、理系研究者等の増進を図る。
- (6) 日常の個別指導や補習、長期休業日中の講習を計画的に実施する。
- (7) 図書館の利用促進などを通して言語教育活動を推進する。
- (8) 実践的な英語力を身に付けさせ、グローバル人材の育成に資する。
- (9) 公民としての権利と義務を自覚させ成人としての態度を育成するために、主権者教育、消費者教育、租税教育、年金教育等を充実させる。

<b>数値目標</b> 授業満足度（生徒）	90.0%以上
学力向上への取組度（生徒）	90.0%以上

### 2 生活指導

- (1) 挨拶の励行、授業規律の徹底、身だしなみなど、高校生としてあるべき姿を考えさせ、全教員で規律ある生活の確立を図る。
- (2) 生徒会等を中心とした体育祭、文化祭等の行事運営を通して、帰属意識を高める。
- (3) 校内研修の充実といじめ防止・体罰防止アンケートを活用し、きめ細かい生徒理解に努め、いじめの未然防止、早期発見・対応を行うとともに体罰ゼロを実現する。
- (4) 薬物乱用防止や自転車事故の防止、SNS上でのトラブル防止等、心身ともに健全な生徒の育成を図るために、セーフティ教室等を活用して危険回避能力の向上や人権的な視点の指導を行う。
- (5) 自他の存在及び生命を尊重する態度を育成し、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにするために、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを大切にする。

<b>数値目標</b> 入学満足度（生徒）	90.0%以上
一日あたりの遅刻者数の割合	0.50%以下

### 3 進路指導（重点目標）

- （1）生徒の進路実現に向けたキャリア教育の充実を図るため、学習・生活・進路の3領域について、総合的な進路指導を行い、生徒個々の進路希望の実現に取り組む。
- （2）学年との連携強化を図り、進路指導部を中心とした進路指導を組織的に推進する。
- （3）職業的自立に向けた教育プログラムの実施と主権者教育の充実を図り、社会人・職業人として生活していくために必要な能力を身に付けさせる。
- （4）探究活動を推進することを通して、自ら考え表現する力を育成するとともに、上級学校でのより深い学びへと繋げていく。
- （5）個々の生徒への理解と支援に努め、きめ細かい指導を行うために、個別面談、三者面談を充実させ、生徒・保護者に継続した働きかけを行う。
- （6）補習・講習・勉強マラソン等を通して学習計画や自主学習の重要性を認識させるとともに、上級学校への進学を目指した学力の定着・意欲の増進を図る。

<b>数値目標</b> 進路決定率	90.0%以上
-------------------	---------

### 4 特別活動・部活動（重点目標）

- （1）主体性を育み、達成感や自己有用感を味わう機会とするために、体育祭、文化祭等の学校行事の充実を図る。
- （2）教員や指導者が生徒の活動場面に立ち会い、活動の充実を図る。指導に当たっては、体罰や不適切な指導にならないよう、充分に人権に配慮した指導を行う。
- （3）特別活動や部活動等に参加することを通して人を大切にする心を育むとともに、目標に向かい、結果を追求する精神を育成する。
- （4）生徒の基礎体力向上及び健康の保持増進を図るために、部活動及び体育の授業、マラソン大会等を活用する。

<b>数値目標</b> 部活動加入率	90.0%以上
部活動充実度（生徒）	95.0%以上

### 5 募集・広報活動

- （1）施設開放を行うことを通して、地域との連携を強化する。
- （2）ホームページやInstagramを定期的に更新し、本校の教育活動をPRする。
- （3）学校見学会等を充実させ本校を志望する中学生の増加を目指す。

<b>数値目標</b> ホームページ更新回数	200回以上
入選一次受検倍率	1.80以上

### 6 学校経営・組織体制

- （1）主幹教諭・分掌主任を中心として学校経営計画、分掌計画に沿って、職層に応じた具体的な目標を立てて計画的に課題解決に取り組む。
- （2）体罰・個人情報管理・会計等、服務事故を根絶するために、服務研修の定期的な実施やクリーンデスクの励行を行う。
- （3）若手教職員等を対象に、主幹教諭や主任教諭の経験を活かした職場内OJTを推進する。教員相互の授業参観を通して学び合う機会を増やし、若手教職員等の育成を図る。
- （4）ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて仕事の効率化や進め方の改善に努め、教職員の仕事と家庭の両立を応援する。
- （5）地域や近隣の学校、PTA、同窓会等と連携して学校運営を行う。
- （6）特別な支援が必要な生徒を適切に把握し、効果的な支援体制の確立を図る。
- （7）運動施設の安全管理の徹底、校内設備の定期的な点検を計画的に行う。
- （8）自律経営推進予算の執行状況について適切に管理する。

<b>数値目標</b> 勤務時間外の在校時間が月四十五時間超の延べ人数	0名
教員の年休取得日数の年間平均	12.0日以上
一般需用費のセンター執行割合	70.0%以上